

第8章

事後活動セッション

1 事後活動セッションの概要

(1) 目的

事後活動セッションは、各国事後活動組織及びその連携組織であるSSEAYPインターナショナルについての理解を深めさせること、また、自分たちが考えた活動案を事後活動で実現させるために、より具体的な企画・立案を行うことを目的として実施するものである。

(2) 実施方法

事後活動セッションI(全体会)では、ファシリテーターの発表後、各国事後活動組織代表者が各国事後活動組織の連携体であるSSEAYPインターナショナルについて紹介するとともに、その目的・活動状況についての理解を深め、PYのSSEAYPインターナショナルや各国事後

活動組織の活動への積極的な参加を促した。併せて、過去のPYが事業中に発案したプロジェクトの、その後の実施状況及び成果を紹介し、PYがより具体的に事後活動をイメージできるようにした。また、各国における事後活動組織や過去のPYの活動状況や事例について理解を深めた。

事後活動セッションIIでは、国別にPYが事後活動として各国で取り組んでみたいことやプロジェクトについて議論し、各国事後活動組織代表者のアドバイスを受けながらプロジェクト案の作成に取りかかった。また、ディスカッション活動を通して得た学びをいかした議論を繰り返し、自国のプロジェクトを最終化していった。そして、サマリー・フォーラムに向けた発表の準備を行った。

(3) 各国事後活動組織代表者

国名	氏名	事業参加年
ブルネイ		2018
カンボジア		2018
インドネシア		2017
日本		2000
ラオス		2014
マレーシア		2019
フィリピン		2019
シンガポール		2016
タイ		2023
東ティモール		2024
ベトナム		2017

(4) プログラムの流れ

船内 事後活動 セッション	2月9日 14:15～17:00	事後活動セッションI(全体会)
	2月10日 10:00～12:45	事後活動セッションII(国別) (事後活動組織や既参加青年による活動紹介、 プロジェクト案の議論、サマリー・フォーラムの準備)
		
タイ 訪問国活動	2月15日 17:00～22:00	成果発表会、サマリー・フォーラム準備
	2月16日 13:30～15:30	サマリー・フォーラム

2 サマリー・フォーラム（事後活動案）

(1) 概要

2月16日、タイ・バンコクにてサマリー・フォーラムが開催され、各国及び個人の事後活動についての活動案を発表し、共有した。PYは、第49回SSEAYPを通して学んだことを最大限にいかし、社会に貢献していくための第一歩としてこれらの活動案を考案した。

(2) 各国事後活動提案

A. ブルネイ

プロジェクト名: WINGS OF INCLUSION 2.0: I Hear You Here あなたの声を聴かせて

背景:

- ブルネイの障害者総数: 7,024人 (総人口の1.6%)
- うち11.1% (172人) が言語・聴覚障害に分類

目的:

- ブルネイにおけるインクルーシブ (包括的) なコミュニティの再教育
- レジリエント、包括的で思いやりと共感に満ちた社会の構築
- 介護者、福祉職員、ろう児の保護者など、地域で積極的に関わる人々への支援
- 国連持続可能な開発目標 (SDGs) 4、8、10、11、17の推進

対象:

- 地域で積極的に活動する人々
 - ろう児の保護者
 - 福祉従事者
 - 学校教師・スクールカウンセラー
 - 介護者

内容:

- 手話入門講座
 - 指文字、数字、日常会話表現
 - 体験型手話ゲーム
- 専門家によるディスカッション
 - 専門講師・認定カウンセラーの招聘
 - 障害者 (介護者、福祉職員等) との連携
 - 障害者を受け入れ、共に生きるための方法の探求

実施時期:

- ブルネイ・ダルサラーム国 第26回ナショナル・ユース・デーに合わせて実施 (2026年8月開催予定)

期待される成果:

- インクルーシブ政策 (DEI: 多様性、公平性、包括性フレームワーク) の策定
- 障害者に対する社会的意識の前向きな変化
- 公平性と包括性の向上
- 意思決定・運営プロセスにおける障害者の参画拡大

- 全プログラム活動における包摂的参加の強化
- 受益者が積極的なボランティアへ移行する機会の増加

課題:

- 対象者からの関心や参加意欲が低い可能性
- ろうコミュニティの参加率の低さ
- 政策策定及び実施までの時間的遅延

B. インドネシア

プロジェクト名: メラキット: インドネシアの若者を育む希望の創造

背景:

インドネシアは若者の潜在能力を最大限に引き出す上で課題に直面している。若者開発指数 (IPP) は 56.33% に達しているものの、州間格差が依然として大きく、教育、保健、雇用、社会参加、包摂性の分野で進展にばらつきが見られる。

目的:

- 若者開発指数 (IPP) の向上
- 若者のエンパワーメントのためのスキル・知識・資源へのアクセス改善
- 長期的な影響をもたらす持続可能な若者主導の取り組みの創出

対象:

- 合計1,000人の若者
 - 高校生
 - 大学生
 - 地域の若者

内容:

- スキル構築
 - リーダーシップ、デジタルスキル、批判的思考に関するワークショップ
- メンタリング
 - 若者と専門家や地域リーダーとのネットワーク構築
- アクションプロジェクト
 - 地域の実際の課題に取り組む若者主導のプロジェクト
- ウェルビーイング支援
 - 対話のための安全な場の提供、メンタルヘルス意識向上、ピアサポートの推進

タイムライン:

- 2月19日: ジャカルタにてパイロット事業開始
 - モジュールの試行実施、フィードバック収集、初期効果の測定
- 3月: 州別準備期間
 - 各州の青年代表 (PY) が地域ニーズに基づき計画

策定、パートナーシップ構築、参加者募集、プログラム適応を実施

- 5月～6月：実施フェーズ
 - 各州にてワークショップ、メンタリング、若者アクションプロジェクトを本格展開
- 7月：評価及びインパクトレビュー
 - 成果評価、参加者フィードバック収集、優良事例の文書化、拡大に向けた提言作成

期待されるインパクト：

- 地域社会開発への若者参加の増加
- 自信及びリーダーシップ能力の向上
- 州間連携の強化
- 未来を形づくる力を持つエンパワーされた若者リーダーのネットワーク構築

C. 日本

プロジェクト名：Beyond the SHIP～日本全国へ広げるSSEAYPスピリット～

背景：

- SSEAYPは、日本ではまだ十分に知られていない
- 多くの学生が国際交流に対して「不安」や「難しそう」というイメージを持っている

目的：

- 次世代が国際交流に関心を持つきっかけをつくる。
- SSEAYPの魅力を共有し、新たな可能性を広げる。

対象：

- 東京、広島の高校生

内容：

- SSEAYP Experience Day
 - Taste (味わう)：参加国の文化や食の紹介
 - Move (動く)：ダンスや伝統的な身体表現の体験
 - Play (楽しむ)：ゲームや交流アクティビティを通じた異文化体験

実施期間：

- 2026年8月までに実施予定

期待される成果：

- 国際交流への心理的ハードルの軽減
- 高校生の国際的視野の拡大
- SSEAYPの認知度向上
- 将来的な参加者や国際的リーダーの育成

D. ラオス

プロジェクト名：防災対策

背景：

- ラオスでは、洪水が自然災害の約70%を占めている。
- モンスーンによる豪雨や地理的条件が洪水リスクを高めている。
- 主な被害：住宅の損壊、学校の休校、生計手段の喪失
- 若者の間では、防災に関する知識や備えが十分ではない。

い。

目的：

- 高校生をエンパワーメントし、災害レジリエンスを強化する。
 - 洪水リスクとその影響についての意識向上
 - 実践的スキルの提供 (避難方法、応急手当、緊急キットの活用)
 - 事前に備える「予防型マインドセット」の促進
 - 若者が地域社会へ知識を共有することを奨励

対象：

- フェーズ1：ビエンチャン高校生
- フェーズ2：他県の学校及び地域コミュニティへ拡大

内容：

- ワorkshopを通じた、防災に関する青年の意識向上
- 青年を対象とした応急手当トレーニング
- 災害情報のためのSNSプラットフォームの構築、及び防災教育教材 (ハンドブック、メディアコンテンツ、楽曲) の制作

タイムライン：

- 3月～5月：準備期間
 - パートナー探し
 - 資金調達
 - 情報・教材開発
 - 資料作成
- 5月：実施フェーズ
 - 学校訪問・ワークショップ実施
- 5月～6月：評価フェーズ
 - プログラム成果の評価

リスクと課題：

- 専門家や政策支援の不足
- 防災に関する認知度・情報不足
- 予算制約及び資金管理の課題

期待される成果：

- 防災意識を持つ参加者の増加
- 災害リスク及び被害の軽減
- 地域社会 (特に脆弱層を含む) への継続的な情報共有
- 予防と備えを通じた長期的な災害被害の軽減

E. マレーシア

プロジェクト名：ユースフューチャーリーダーズプログラム

目的：

- ユース・スチュワードシップと能力強化
 - 構造化された「Youth Action Circles」を通じて、体験型学習の機会を提供：批判的思考力、チームワーク、リーダーシップを強化
- 異文化間の団結と協働の強化
 - 多様な背景を持つ若者同士のダイナミックな交流

と協働：信頼、団結、長期的なつながりの構築

- SSEAYPで得た価値と経験の波及
 - 航海で得た知識・スキル・国際的視野を地域社会へ還元：持続的かつ意義あるインパクトの創出

対象：

- 活発で包摂的なグループを構築するため、多様な背景を持つ18歳から25歳の若者
- 参加者の多様性は、有意義な対話、文化交流、及び協働学習を促進する。

プログラム内容：

- オリエンテーション
- パワートーク（特別講演）
 - Personal Branding（自己ブランディング）
 - Career Roadmap（キャリア設計）
- 課題別視察
- 実践的なグループ活動を通じた課題解決型学習
 - テーマ1：学び方を変えてより良い学び方を探る
 - テーマ2：意識的に学ぶ
 - テーマ3：若者が創る未来
 - テーマ4：防災意識の向上
 - テーマ5：共に築くインクルーシブ社会
 - テーマ6：すべては未来のために

タイムライン：

- 3月
 - キックオフミーティング
 - 初期企画立案
 - 参加者募集開始
- 4月
 - プログラム内容及び運営詳細の確定
 - 進捗会議
- 5月
 - 講師選定
 - サイト訪問
 - 進捗会議
- 6月
 - ブートキャンプ教材準備
 - 確定
 - 参加者リスト
 - 進捗会議
- 7月
 - ブートキャンプ教材最終準備
 - 進捗会議
- 8月
 - 最終調整会議
 - 実施当日（D-day）
 - モニタリング及び評価

期待される成果：

- 参加者は、自信と実行力を備えたチェンジメーカーへと成長し、批判的思考力・チームワーク・リーダーシッ

プを高めながら、意義ある行動を起こせるようになる。

- 若者たちは、相互理解を深め、多様性を尊重し合い、継続的な協働へとつながる本物の異文化間の友情を築くことができる。
- 参加者はプログラムで培った精神と学びを地域社会へ還元し、周囲を動機づける活動を展開することで、長期的な変革をもたらすことができるようになる。

F. フィリピン

プロジェクト名：BAGANI インパクトネットワーク

1) Bagani プライド：Apo Youth Congress 4

目的：

- 若者が実社会に即した課題解決型学習を通じて、批判的思考力、政策立案能力、戦略的計画力を強化することを目的とする。

内容：

- 研修実施に向けた準備
- エンジェル投資家及び政府スポンサーからのシード資金確保
- メンタリング及びモニタリング体制の構築

タイムライン：

- 2月20～21日：能力強化研修
 - ピッチ準備のためのオンライン研修
- 3月27日：プロジェクト・ピッチ
 - プロジェクト提案発表
 - 提案決議案の作成
- 4月～9月：プロジェクト実施期間
 - 各団体・参加者による事業実行
- 4月～12月：評価期間
 - 実施状況の評価
 - 2027年に向けた総合評価

期待される成果：

- 200名以上の若者参加（全国規模）
- テーマ別の決議案策定
- 15件以上のプロジェクト提案
- 有望プロジェクトへのシード資金提供

2) Bagani トーク：メンタルヘルス

概要：

- 全国の提携校、大学生、若者リーダーを対象としたメンタルヘルスに関するウェビナーシリーズ（ウェビナー形式及びポッドキャスト形式の対話型セッション）

今後のステップ：

- パイロットセッション（メンタルヘルス編）の実施
- 最初の3～4テーマの選定
- 提携校及び大学パートナーの確保

3) Bagani プロジェクト: ボホール市プロジェクトフェア概要:

- Youth Lead Philippines 及びボホール市政府と連携し、対面形式でピッチイベントを実施する。
- 全国の若者団体が地域課題解決策を提案し、シード資金やメンタリング支援の機会を得る。

今後のステップ:

- パートナリシップ契約の確定及び資金確保
- ピッチの仕組み及び審査基準の策定
- 全国公募の開始

G. シンガポール

プロジェクト名: シンガポール公営賃貸住宅に暮らす子どもたちのためのワークショップ

背景:

シンガポールの公営賃貸住宅 (低所得世帯向け住宅) に暮らす子どもたちは、以下の課題に直面している:

- 教育及び社会情緒面
 - 賃貸住宅コミュニティの子どもたちは、発達上の成果がより乏しくなる傾向にある。
 - 認知発達や全人的成長を支える学習資源や教育機会が少ない傾向にある。
- 気候変動関連
 - 賃貸住宅に暮らす子どもたちは、気候変動から不当に大きな影響を受けやすい傾向にある。
 - 低所得世帯では、光熱費が家計収入に占める割合が大きいこと、暑熱対策 (扇風機やエアコンの使用増加など) を講じることが困難な場合がある。

対象:

- 公営賃貸住宅に住む 9 歳～16 歳の子ども 30～40 名
- 多様な参加者構成により、対話・交流・協働学習を促進

内容:

- Stick' Em ワークショップ (STEM 体験)
 - 何を: 幾何学コネクタ、木製箸、簡単な電子部品を用いた Stick' Em キットで基礎的なロボティクスを学ぶ。実践的な活動を通して STEM (科学・技術・工学・数学) への自信を育む。
 - 何故: 低所得世帯の子どもたちは STEM 分野に触れる機会が限られている場合があるため、質の高い体験型学習を提供する。科学への固定観念を打破し、創造性や実用性を体感することで「Reimagine to Rethink (再発想)」を促す。
- Drama in Education ワークショップ
 - 何を: 演劇を表現手段として活用し、物語づくりやロールプレイを通じて感情や社会課題を探求し、安全で安心できる対話空間を提供する。
 - 何故: 言語的に感情を表現することが難しい子どもたちに対し、体験型学習を通じて自己表現を促

進し、コミュニケーション能力やチームワークを育成する。

Climate Fresk for Kids ワークショップ

- 何を: 科学的根拠に基づいた、子ども向け気候変動学習プログラムで、教師や気候専門家によって開発された、遊びながら学べる形式
- 何故: 低所得世帯の子どもたちは気候変動の影響に対して脆弱である可能性があるため、気候不平等への理解を深め、気候行動における自分たちの役割を考えるきっかけをつくる。

期待される成果:

- ボランティア側
 - ボランティア経験の向上
 - 継続的に関わりたいという意欲の向上
 - 地域社会への貢献意識の強化
- 参加児童側
 - ロボティクス/演劇/気候変動に関する新しい知識を得たと回答する参加者の割合向上
 - STEM・演劇・気候関連活動への継続的関心を示す参加者の割合向上

H. タイ

プロジェクト名: スタンド・バイ・ミー: ノンタブリー青年アクション

目的:

ノンタブリー県における青年の育成と、有意義な参画を強化すること

- 短期目標 (90 日以内)
 - 地域青年のアドボカシー力、リーダーシップ、プロジェクトマネジメント能力の強化
 - 市民参加の機会に対する認知度向上
 - 地域アクションを開始するための実践的スキルの提供
- 長期目標
 - 世代間を超えた若者参画の促進
 - ノンタブリー県における持続可能な若者主導ネットワークの構築
 - 若者が次世代を指導・エンパワーする文化の醸成

対象:

- ノンタブリー県在住の 15～25 歳の若者 50～100 名
- 高校生、若者リーダー、ボランティア、地域青年代表
- 多様な背景を持つ若者
- 変化を起こしたいという意欲を持つ若者

内容:

- 自分の能力を知ろう! (能力強化ワークショップ)
 - 自分の「ツール (=能力)」を知る。
 - 自己理解 (強み・課題の把握)
 - パブリックスピーキングとコミュニケーション
 - プロジェクト企画・実施方法

- ステークホルダー・エンゲージメント
- 自分の能力がどのように世界を助けるか! (ユースアクションラボ)
 - 5～7名の少人数チーム結成
 - 地域の重要課題を特定
 - 各チームによるミニアクションプロジェクト提案作成
 - ステークホルダーへの発表とフィードバック取得
- 自分の能力を活用しよう!!! (最終発表・コミットメントセッション)
 - ユースチームによるアクションプロジェクト発表(ハッカソン形式)
 - ステークホルダーからの助言・支援提供
 - 「Stand by Me」ミニプロジェクトのフォローアップ実施

タイムライン:

- フェーズ1 (1日目～30日目): 準備期間
 - 関係者との調整
 - 資源確保
 - カリキュラム最終化
- フェーズ2 (31日目～60日目): 能力強化期間
 - 3～4回のワークショップ実施
 - チーム編成
- フェーズ3 (61日目～85日目): 実践・対話期間
 - Youth Action Labs実施
 - 世代間対話の促進
- フェーズ4 (86日目～90日目): 成果発表・評価
 - 最終プレゼンテーション
 - 評価実施
 - 持続可能性計画策定

期待される成果:

- 50～100名の若者がスキル向上(アップスキル・リスキル)
- 6～10件の若者主導ミニアクションプロジェクト創出
- 若者と行政の協働関係強化
- 持続可能な若者参画プラットフォームの確立

I. 東ティモール

プロジェクト名: ESPERANSA (希望)

背景:

- 青少年に必要とされるリーダーシップスキルの不足
- 環境意識の低さ
- 持続可能性に関する取り組みへの若者の参画の必要性
- SSEAYP同窓生のネットワーク強化

目的:

- リーダーシップの育成
 - 参加型ワークショップや対話を通じて、責任感・主体性・協働の価値を育み、青少年のリーダーシッ

プを促進することを目指す。

- 環境行動の推進
 - マングローブ植林や清掃活動などの環境保全活動への積極的な参加を促し、地域社会における持続可能な実践を推進する。

対象:

- 大学生
- 農村地域のコミュニティ
- 青少年団体

活動内容:

- SSEAYPワークショップ
 - リーダーシップの価値観を共有する双方向型セッションの実施
- 植林活動
 - 地域主導による沿岸保全を目的としたマングローブ植林
- 清掃活動
 - 地域住民を巻き込み、環境責任への意識を高める活動

タイムライン:

- 3月～7月: SSEAYPワークショップ
- 7月～8月: マングローブ植林・清掃キャンペーン
- 2026～2027年: SSEAYP東ティモール同窓会の設立

期待される成果:

- 理解の向上
 - 参加者がSSEAYPの価値観への理解を深め、青年リーダーシップや地域間協力への関心が高まる。
- 意識の強化
 - 環境キャンペーンや実践活動を通じて、気候変動対策や持続可能性に関する地域の知識が向上し、若者や住民の責任ある行動が促進される。
- 参加の拡大
 - 地域活動への参画が増えることで、チームワークと市民的責任感が育まれ、若者や同窓生の間に強いコミュニティ意識が醸成される。

J. ベトナム

プロジェクト名: ザ・サイベズ (サイバーセキュリティ・トークショー)

背景:

- ASEAN地域
 - ASEANのインターネット利用者は4億6,000万人以上
 - サイバー犯罪による損失は年間8兆米ドル超
 - アジア太平洋地域における深刻なサイバーセキュリティ人材の不足
- ベトナム
 - 65万9,000件のサイバーセキュリティ事案を記録
 - 2024年に142億3,850万件のアカウント情報が流出

(世界全体のデータ侵害の約12%を占める)

対象:

- 大学生及びその保護者 2,000名以上

内容:

- 現代のサイバー脅威の現状に対する理解

- 実践的なデジタル自己防衛
- 若者のリーダーシップとデジタル倫理
- 双方向型のQ&Aセッション

実施時期:

- 2026年4月実施予定